

四国電力本店への質問状—V (使用済み核燃料と基準地震動について)

2016年7月11日 再稼働阻止全国ネットワーク 木村雅英

6月30日に四国電力広報部よりメールで返事をいただきました。ありがとうございました。

ただ、ご回答ではまだ不明のことが多数あります。今回はそのうちの一部について質問させていただきます。どうぞなるべく詳しくお答えいただきたくお願い申し上げます。

1 使用済み核燃料の保管・管理について

(これまでの回答)伊方発電所で発生した使用済み燃料は2635体、うち1213体を再処理のために搬出、1422体が伊方発電所に保管されている。1～3号機がすべて稼働した場合に年間80～90体増える、あと8～9年は問題なく貯蔵が可能である。1213体のうち海外で再処理済みのもの以外は青森県の日本原燃再処理工場に保管されている。高レベル放射性廃棄物については将来に先送りしないよう電気事業者として皆様にご理解いただくための活動に取り組んでいる。

テロ対策について:回答できず。稠密保管について:回答無し。

高レベル放射性廃棄物について:地下300メートルより深い岩盤への最終処分に向け、NUMOを主体とした取り組みが勧められている。

(6月30日回答)

- ・伊方3号機については、使用済み燃料ピットのリラッキングを行っている
- ・高レベル放射性廃棄物の地層処分については、既に技術的に確立されたもの
- ・処分地選定に向けて国が「科学的有望地」を示すことになっている

(質問1-5)

○リラッキングして稠密保管しているそうですが、燃料全体の状況と保管密度を教えてください。

○エドヴィン・ライマン(米、憂慮する科学者同盟)によれば、次の記述があります(岩波「科学2015. 12」)。

- ・福島第一原発3号機と4号機の使用済み燃料は高稠密化ラックを使っていたために使用済み燃料が発火した場合どうなるかを検討し、EPA基準によれば200km離れた東京でも避難が必要となるかもしれない、と心配した。
- ・使用済み燃料火災のリスクは、稠密プールから敷地内乾式貯蔵キャスク、あるいは敷地外集中乾式貯蔵施設に移し、残った燃料をプール内でもっと広く離して置けば、大幅に低減できる。

これらの提案についての御社の考えを教えてください。

○「安全性については国の確認を受けている」そうですが、それで本当に安全と御社は考えているのですか？

○NUMOが各地で説明会を開いているようですが、「科学的有望地」がすぐに見つかり、その住民がそこでの処分を認めると思いませんか？

○「トイレなきマンション」はあまりに緩い例えだと思えますが、上記の状況を考えれば原発再稼働は「トイレなきマンション」でうんちをすることだと思いませんか？

○「トイレなきマンション」でまずすべきことは「トイレ」を作るか探すことではありませんか？

○高レベル放射性廃棄物の保管・管理・場所について、NUMOがいつ解決すると御社は考えていますか？(再)

○これから伊方3号機を再稼働した場合には、燃料は何度にまで上昇するのですか？(再)

○「地層処分については、既に技術的に確立されたもの」と回答いただきましたが、その根拠資料を教えてください。

○最も進んでいてかつ地震が非常に少ないフィンランドのオンカロでも、10億年間大丈夫とは言えないと言われていくることについてどう思いますか？

2 耐震性について

(質問2-7)

原子力規制委員会の島崎前委員長代理が熊本大地震を踏まえて「入倉・三宅の式」が地震動を過少評価すると警告し、今大飯原発の基準地震動評価が見直されています。伊方原発3号機の評価において「入倉・三宅の式」を使っていますか？「新しい知見がまとまれば適切に反映する」そうですが、今すぐ見直す必要があるではありませんか？

以上、取り急ぎ、今回のご回答の一部について追加質問させていただきます。

ご多忙中恐縮ですが、なるべく早く(特に再稼働する前)にご回答いただきたくお願い申し上げます。